



『99.8%識字率の日本では識字率向上のために何ができるか?』 -識字率向上月間にあたり-

国際ロータリー第2510地区

2011-2012年度 ガバナー **熊澤隆樹** (小樽RC)

皆様、任期も残り少しになりましたが、いかがお過ごしでしょうか？私も公式訪問は終わりましたが、2月からIM（インターシティ・ミーティング）・周年行事が目白押しで、忙しい日々が続いております。貴クラブでも地区目標に向けて日々努力していただけていると存じます。近々の問題として、大震災救援奉仕プロジェクトとして年度当初、佐々木、熊澤、細川年度と継続的な事業の位置づけをしまいいりましたが、今一度ご確認をして、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、私は日頃、人間が人間たるのには教育が大切であるとするものの一人です。ですから、小・中・高・大学の恩師、特に大学院での指導教授、そして父の教えを大切に、今日ここに辿り着いた感があります。そして、その思いが人一倍強いものがありました。

よく「企業は人なり」と言っており、優良な企業になるには人材教育が大切であることはこれまで色々な所で話されてきております。

明治維新から始まった日本の近代国家にとっても、江戸時代まで続いてきた寺子屋にみられる教育は、誠に大なるものであったことは衆目の認めるところであります。昨年10月の小樽で行われた当地区大会での記念講演者、藤原正彦氏はその日本の昔の教育のすぐれたことにもふれられており、江戸時代の初めに識字率が50%であり、男性で70%、女性で30%で世界一であったそうです。

今日の教育の問題点については、私も13年間の専門学校（歯科衛生士）と北海道大学（歯学部）の30年に近い非常勤講師として色々強く感じるものがありました。そこに「読み、書き、そろばん」という基礎教育の大切さにふれられた藤原氏の提言はまさに的を得たものと感じており、この度の記念講演をご依頼した大きな理由でもありました。

ロータリーでも「未来の夢計画」の新補助金体制における6つの重点分野に**基礎教育と識字率の向上**があります。これは識字と「世界の貧困と経済格差」との関係において貧困こそ諸悪の根源と言われていて、非識字と貧困は悪循環することは広く認められており、武力紛争や社会不安に潜む諸悪の根源が「世界の貧困と経済格差」にあると重田政信元RI理事も述べております。田中 毅PDGは『世界では自分の国の言葉による「読み、書き、そろばん」ができない、非識字者は世界で8億人、そのうち3分の2は女性で4分の3の人々は発展途上国に住んでおり、ロータリーの識字率向上活動として、Concentrated Language Encounter (CLE) と呼ばれている語学力集中研修、その他、一般的教育支援プログラムとして、学校建設事業、教育資材寄贈、図書寄贈、教員養成などのプロジェクトがあります。99.8%という世界最高の識字率を誇る日本でも識字能力が不十分な在日外国人や外国人労働者やその家族がいることを忘れてはなりません。さらにインターネットやメールができない情報非識字の問題もあります。こう考えると、日本における識字教育の必要性も無視できない』と述べております。これからTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）が行われると外国人労働者への日本語教育の必要性が益々増えていくことが予想されます。

国際ロータリーの戦略計画（旧長期計画）の三本柱の「人道的奉仕の重点化と増加」での**基礎教育と識字率の向上**では発展途上国にとって平和の確立のために最も重要ともいえる奉仕プロジェクトであり、これからのロータリー財団の役割が非常に我々会員にとっても重要になり、そのためによく検討を加えながら、大いに利用しなければならないと思われまます。

未来の夢計画に期待を込めて！